

旅立つ人へのメッセージ

それぞれの夢に向かって



教育委員長 小池 敬子

人生の門出を、私達は一生のうち何度か経験します。初めての一步は、この世に生を受けた時。それから入園、小中学校、高校、大学への入学、就職や成人式を迎えた時など…。

私の継続している活動にガールスカウトがあります。今年で登録二十九年になりました。何もできない私でも、仲間のおかげで、今はガールスカウトが私の生活の一部にもなっているかなと思えるほどになりました。

世界中のガールスカウトには共通の「やくそくとおきて」があり、それは私たちガールスカウトの理想と精神です。

少女も成人も、これをいつも身近に感じられるようにしながら、個々の資質を育んでいきます。ここに紹介させていただく事は誰にでもできる簡単なことではないで、自分の心で感じて行うことは少し違ってくるのではないのでしょうか。

「やくそく」

私は神（仏）に対するつとめを行い、地域と国と世界への責任を果たし、人に役立つことを心がけ、

ガールスカウトのおきてを守ります、

「おきて」

一 私はいつも明るく、勇気を持ちます。

二 私はいのちあるものを大切にします。

三 私はすべての人の友達となり、他のガールスカウトとは姉妹です。

四 私は礼儀を正しくします。

五 私は時間と資源を大切に使います。

六 私は自分で考え行動します。

七 私は、言葉と行いに責任を持ちます。

八 私は誠実であるように努めます。

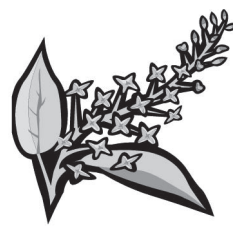
一生のうち何回かある門出のとき。それぞれの夢に向かい希望と目標を持ち、レッツゴー。時には思うようにいかず悩む時もあると思います。その時は一人で悩まずに思い出してください。自分の周りにいる両親・

友達・先生・地域の方々を。勇気を持って相談してみましよう。きっと一緒になって考えてくれるでしょう。

町長がよくこう言っています。「下諏訪の子どもたちは町の宝です。」

それぞれの道に、夢に向かって旅立つ皆さん。いろいろな国や地域で、多くの仲間と触れ合い、たくさんさんの経験をjして、またこの町、下諏訪に帰ってきてください。

そして、幼児からお年寄りまで、この町に生まれ過ごせたことに感謝できるような町を、若い行動力のある皆さんと町民全員でつくっていきましょう。



社会にプレイボール



東町下
中村 政知

私はこの春高校を卒業し、夢だった消防士として新しい人生のスタートをすることになりました。私が消防士になると決めたのは、人のために役立つ仕事に就きたいと思ったからです。町の方々の笑顔を守る仕事だと思っています。

また兄弟の中で、私だけが高校を卒業し就職することになったので、これからは家族の生活を少しでもサポートしていくことができたと思います。

今までの学生生活とは違い、全く新しい環境の中で、与えられた仕事を責任を持って果たさなければいけません。楽しいことばかりではなく、つらいこと

もあると思いますが、自分が消防士になったかった根底をみつめ直し、乗り越えていきたいと思っています。

理想を現実にすることは簡単なことではありませんが、頼られる消防士を目指して頑張りたいと思います。

精一杯働きたい



有賀 奈美

私はこの春から社会人になります。就職難と言われている今、内定の通知をいただいた時はとても嬉しかったです。社会に出ていくことへの不安はありますが、今は楽しみの方が大きいです。

社会人になるにあたり、学生と大きく違うのは責任の重さだと思います。それは、社会に出

ていくということにはそれだけの責任が伴うからです。無責任なことをすれば、他の人に迷惑をかけることになりますし、社会での自分の居場所をも失う可能性があります。だから社会人には学生の時とは違った社会的責任が求められるということです。そのため、今よりもさらに自分の言葉や行動に責任を持ちたいと思います。

就職が内定した企業は、日本だけでなく世界に羽ばたいている大企業です。下諏訪町が誇る企業の一つであり、同じ下諏訪町にある下諏訪向陽高校を卒業して働く私にも、大きな使命があります。

「責任・自覚・情熱」をモットーに、精一杯働きたいと思っています。そして、会社はもとより、広く社会に貢献していきたいです。

(向陽高校卒業)



OPEN

四月から、七つの保育園が三つの保育園に統合されます。園の名称も、第二・第五・一つ浜保育園が各々、さくら・とがわ・みずべ保育園に新しく生まれかわります。

下諏訪町の自然の豊かさ（山、川、湖）を象徴するとともに、園児たちが桜の花のように優しい心、砥川の清流のように清く美しい心を持ち、諏訪湖の水辺のようにきらきらと輝きながら成長してほしいとの願いから、この名称に決定されました。

三園体制になることで、各保育園の定員数が一段と増えることとなります。

いきなり大勢の仲間と保育園生活を送ることで、園児本人の戸惑いはもちろんのこと、保護者の不安や悩みも想像されるところですが、より多くの友達と交流する中で、一層のたくましさを得ることになるでしょう。

同時に、保護者には長い目で子どもたちの成長を観察いただき、我が子の歩みを温かくゆっくりと見守っていただくことを望みます。

(土田)